

# 平成15年度 施政方針



市の木・くす



市の花・つつじ



市長に就任して4年目を迎えました。年を追うごとに市政運営の難しさを痛感すると共に、責任の重さに身の引き締まる思いです。

昨年、本市では、待望の「ラグーナ蒲郡」が本格オープンし、蒲郡市の名を広く知らしめる新たな風が吹きました。また、東海地震の強化地域に指定されたのも昨年でした。市民の皆さんの危機管理意識をどう高めていくか、大変重要な課題であると認識しています。

日本中に不景気の風が吹き、いささか沈滞ムードに覆われている今こそ、蒲郡市を明るく、元気のあるまちにしたいと願うものです。カラ元気にならないよう頑張りますので、お力添えをお願いいたします。

選挙公約に掲げましたとおり、私は、「議会制民主主義を尊重し、市民の心を市政につなぐ」を市政推進の基本理念とし、

第1に「安心のまち蒲郡」

第2に「自然と共生するまち蒲郡」

第3に「明るく元気なまち蒲郡」

の三つを基本施策の柱として、まちづくりに全力で取り組んでいます。

基本施策推進にあたっては、民間の経営感覚を導入し、常に事務事業の評価と見直しに努め、気配りを持った行政、スリムな行政、ソフト施策重視の行政を目指します。その前提として、「市長への手紙」や「市長対話・ざっくばらん」を実施し、市民の皆様の声を十分お聞きし、市政に反映していくことに心がけてまいります。

市政運営に必要な財源につきましては、その確保がたいへん厳しくなっています。歳入の根幹をなす市税収入につきましても、前年度と比較し若干の減収となりました。不足する財源の確保としては、市債の活用にも限界があるので、年度間の財源調整の役目を果たす財政調整基金および減債基金の取崩しを行い、補てんをしていきます。

一方、歳出においては、幹線道路の整備や連続立体交差事業、土地区画整理事業、下水道事業などの大型継続事業をはじめ、公共施設の維持管理、福祉対策、教育・青少年問題や環境対策あるいは産業振興など多くの課題が山積し、財政需要はますます高まっています。

このような状況から、平成15年度の予算編成にあたりましては、後年度の財政運営にも配慮し、優先順位の厳しい選択のもとに、限られた財源の重点的かつ効率的な配分に留意いたしました。